

謝致しております。安定性基準の問題は多年強く要望されて居りながら仲々明確な解決にまで到りませんでしたが、博士は先般御発表になりました詳細な御研究の成結とその後の調査研究の結果に基き今回は種々の要素を比較的簡単な方法で採入れしかも相当精度の高い判定法をお示し下さいました。必ずや今後の安定性研究に多大の貢献をされることと信じます。只今の御講演に対し皆様と共に拍手をもつて御礼申し上げ度いと思ひます。(拍手)

p. 55~60

## 船舶検査に於ける旅客船の復元性基準に就いて

水 品 政 雄  
内 田 守

○(座長)佐藤 正彦君 只今の御講演に対し御質疑、御意見が御座いましたら御願ひ致します。……別に御発言が御座いません様ですから私より一言御挨拶申し上げます。

先般来から旅客船の復元性基準に就いて種々研究が行われまして、今迄兩三回各論的に御発表があつたのでありますが、今回はそれ等を総合した近く法制化される基準に就いて御説明を伺つた訳でありまして、その間一方ならぬ御苦勞をされた事と思ひます。只今の御講演によりますと甲乙丙の三つの基準に基いて安全性を押えるということ、海運国も多々あります中で今までに復元性の基準を設けて居りますのは米国と、ソ連だけの様でありますがいずれも静的な考え方で、波や風の影響まで考えていないのでありまして、今回の基準は数等進んだものと信じます。この様な形に纏められます迄には並々ならぬ御苦心があつたことお察し致します。

今後この基準の実施に伴い今後追々と実績も集積されることと存じますから、更にそれ等の実績に依り御検討の上、より好い基準となります様引続き御協力下さいませ御願ひ申し上げます。世界の海運国の間で多年の宿題となつておりますこの問題に対し大きな成果を挙げられたことに対しまして深甚な敬意を表するものであります。只今の御講演に対し拍手を以つて御礼申し上げたいと思ひます。(拍手)

p. 61~66

## 傾倒式土運船

小 岩 健

○福田 啓二君 土運船の顛覆力及び復原力を巧に利用して遠隔管制で泥土を捨てたり復原させたりする考案は極めて独創的で敬服する。valve の保存性に問題があるようですがどうでしょうか。

○小岩 健君 今まで 100 回位の経験では問題ありませんでしたが valve の pin の所と弁のゴムの部分が腐蝕した事はありました。又今迄に船員が船に乗り移つて手で valve をあけた事もありましたが deck が immerse する迄にこれ等の操作をする時間はありました。

○福田 啓二君 保存手入の点ではどうでしょうか。

○小岩 健君 これからその点について研究報告したいと思つて居ります。

○加藤 弘君 粘性の強い泥土の時は棄て切らずに起き上る事はありますか。

○小岩 健君 それはあり得る事でありまして、之を防ぐ為め傾いて逆さまになつた時暫くそのままで動揺させて置きますと、泥が落ちて行きます。

○加藤 弘君 逆さまになつている 2 分から 8 分間位に、泥が落ちて行く訳ですか。

○小岩 健君 その通りでありまして、その時間等は注水弁の調節で行つて居ります。

○(座長)加藤 弘君 普通の船と異り傾倒式の土運船について研究され模型船を 3 隻も造られ、其の上実際の船についてもいろいろと研究され、茲に発表して下さいました事に対しまして私共一同拍手をもつて御礼申し上げます。(拍手)